

トランスポーズ（移調）機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー（調）を合わせることができます。（つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。）

±6半音の範囲でずらすことができます。つまり、「ド」の音なら高い方に最大で「ファ#」（半オクターブ上）まで、低い方も最大で「ファ#」（半オクターブ下）までずらすことができます。
たとえば、+5半音ずらす（完全4度上げる）と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



● 移調量の設定方法

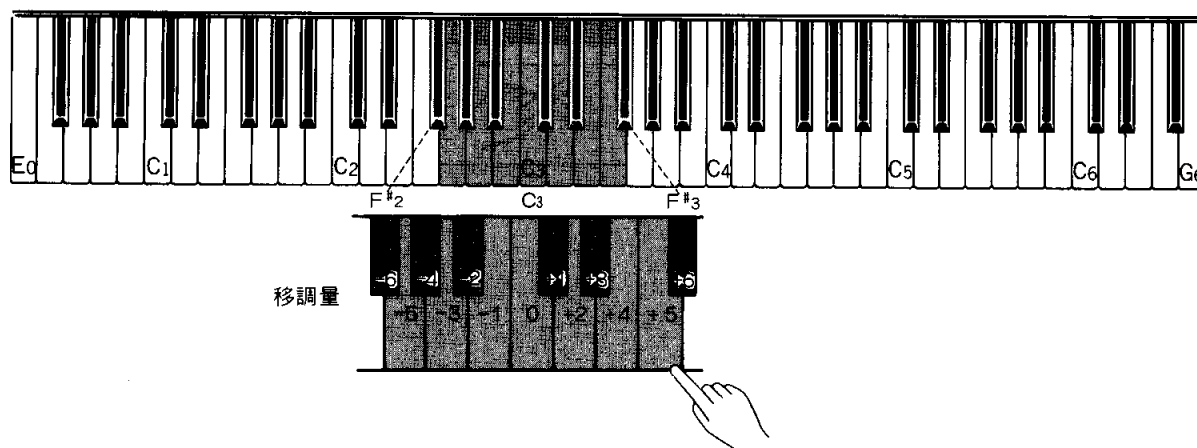
①MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANPOSE)ボタンを押しながら、

②F#₂~F#₃の鍵盤を押さえます。

F#₃の鍵盤……………+6半音に設定されます。

↑
C₃の鍵盤 ……………標準状態です。

↓
F#₂の鍵盤……………-6半音に設定されます。



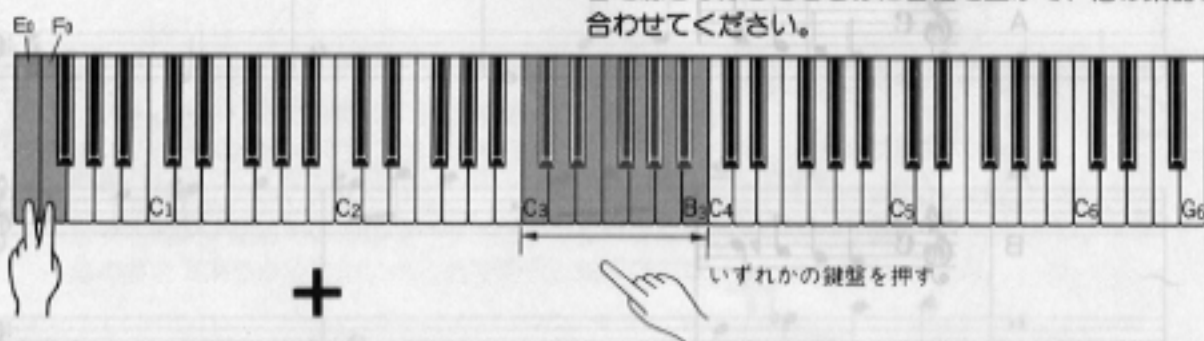
🎵 補足 ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。

ピッチコントロール機能

合奏の時などに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

1 音程を上げる時

- ① E₀とF₀の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
 - ② C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。
- 1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。
音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



2 音程を下げる時

- ① E₀とF₀の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しな
がら、
 - ② C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。
- 1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を
聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わ
せてください。

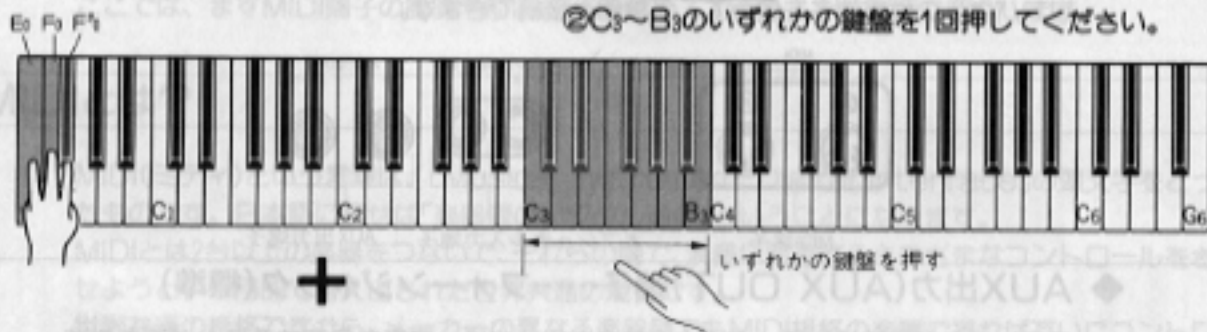


3

標準状態に戻す時

①E₀とF₀とF₀[#]の3鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、

②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を1回押してください。



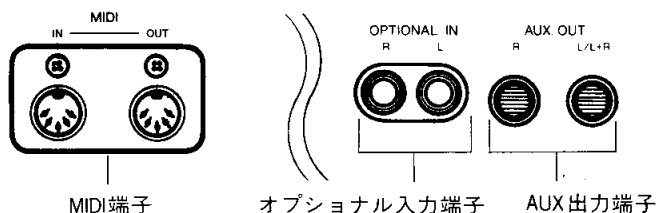
- 補足
- ・音程は、±約50セントの範囲を約1.6セントきざみで設定できます。(100セント=半音)
 - ・標準状態の時、A₃=440Hzです。
 - ・MIDIのローカルコントロールがオフ(23ページ参照)の時は、ピッチコントロールの設定はできません。
 - ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。



ここに示した以外にも、いろいろな使い方があります。

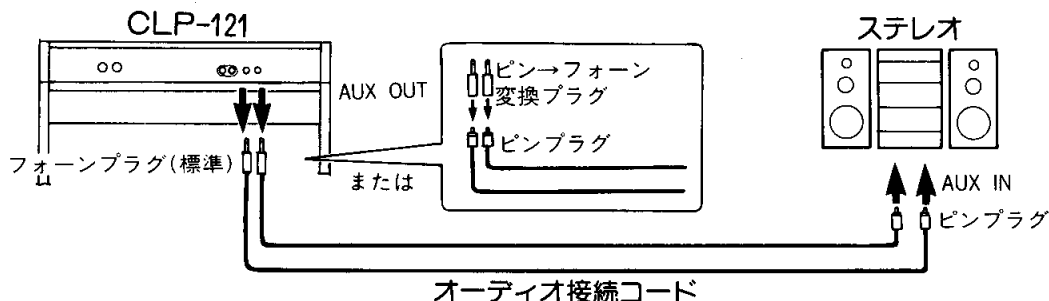
他の機器と接続する

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。



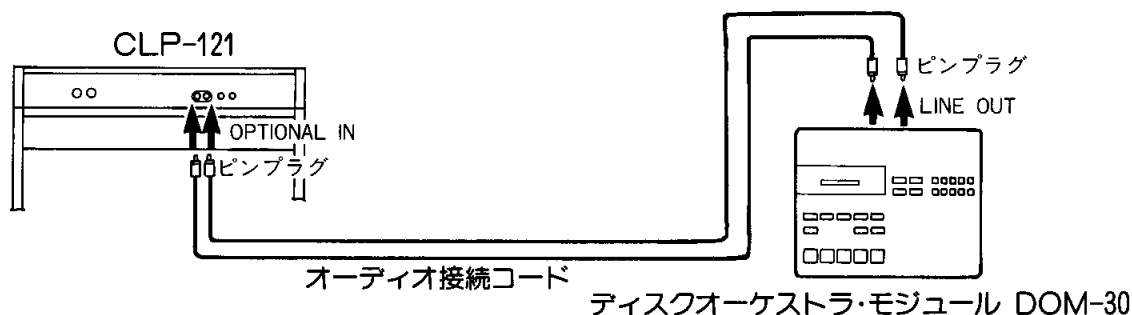
◆ AUX出力(AUX OUT)端子……フォーンジャック(標準)

ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続した時は、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。



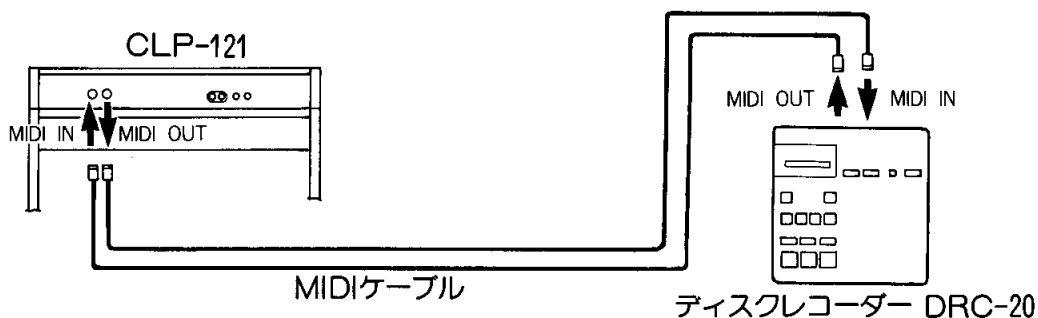
◆ オptional入力(OPTIONAL IN)端子……ピンジャック

他の楽器や機器の音をクラビノーバでいっしょに鳴らすことができます。



◆ MIDI(MIDI IN, OUT)端子

DOM-30、DRC-20などのMIDI機器を接続します。



MIDIについて

ここでは、まずMIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできることなど順に紹介します。

1. MIDIとは？

MIDI(ミディ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の頭文字をとったものです。日本語に訳せば「楽器間のデジタル通信」ということになります。

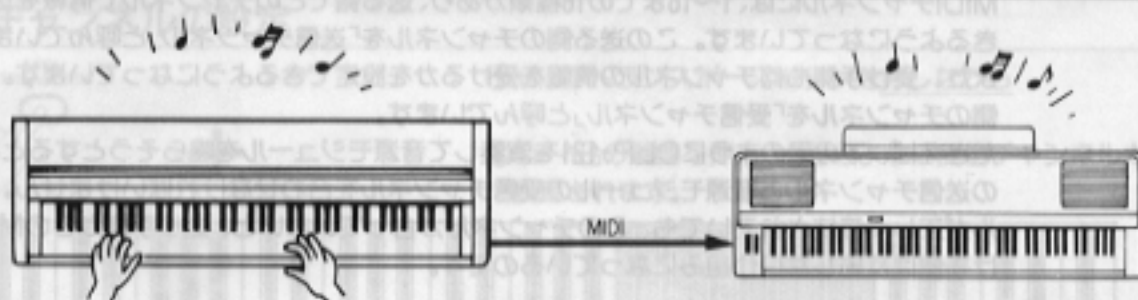
MIDIとは2台以上の楽器をつないで、それらの間で、演奏に関連するさまざまなコントロールをさせようという目的で考え出された世界共通の規格です。

世界共通の規格ですから、メーカーの異なる楽器間でもMIDI規格の楽器であれば互いにコントロールすることが可能です。

2. MIDIの能力

では、MIDIを使うと、具体的にどんな事ができるのでしょうか？

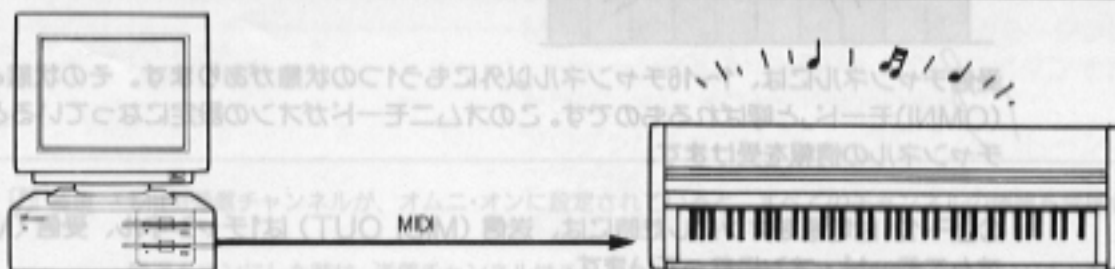
1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードを同時に鳴らすことができます。また、音色の切り替えや、ダンパーペダルのオン/オフなど、さまざまな効果もあわせてコントロールできます。



機種によりMIDIでコントロールできる内容は異なります。接続する機種に共通のMIDI機能についてのみ、コントロールできます。

コンピューターやシーケンサーにMIDIの演奏情報を記録しておけば、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。

(MIDIの演奏情報を記録する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



ここに示した以外にも、いろいろな使い方があります。

3. MIDIの約束ごと

① MIDI端子

MIDI情報のやり取りには、専用のMIDIケーブルを使います。MIDI楽器には、このMIDIケーブルをつなぐために、専用のMIDI端子がついています。

CLP-121のMIDI端子には以下の2つの種類があります。また、他のMIDI楽器にはこれ以外にスルー(THRU)という端子がついていることがあります。

イン(IN)端子MIDI情報を受け取るための端子です。

アウト(OUT)端子MIDI情報を出すための端子です。



MIDIケーブルで、情報を送り出す機器のアウト端子(またはスルー端子)と、情報を受ける機器のイン端子を結線します。

② MIDIチャンネル

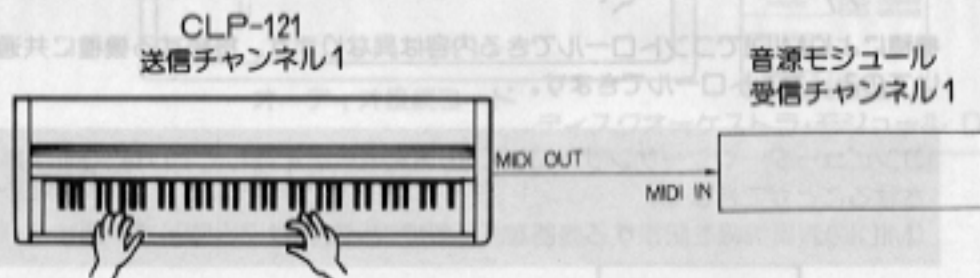
テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIの情報にもチャンネルがあります。

MIDIで情報のやり取りをするには、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。というのは、MIDI情報のほとんどが、それぞれの情報にチャンネルが指定されて送られているからです。(チャンネルのついていないMIDI情報もあります。)

MIDIチャンネルには、1~16までの16種類があり、送る側でどのチャンネルで情報を送るか設定できるようになっています。この送る側のチャンネルを「送信チャンネル」と呼んでいます。

また、受け手側も何チャンネルの情報を受けるかを設定できるようになっています。この受ける側のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

たとえば、下の図のようにCLP-121を演奏して音源モジュールを鳴らそうとすると、CLP-121の送信チャンネルと音源モジュールの受信チャンネルを合わせなければいけません。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっているのです。



受信チャンネルには、1~16チャンネル以外にもう1つの状態があります。その状態とは「オムニ(OMNI)モード」と呼ばれるものです。このオムニモードがオンの設定になっていると、すべてのチャンネルの情報を受けます。

CLP-121は電源をオンにした時には、送信(MIDI OUT)は1チャンネル、受信(MIDI IN)はオムニモード・オンになっています。

MIDIチャンネルの設定

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルの設定方法を紹介します。

1. 送信チャンネルの設定

MIDI/
TRANPOSE

+

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

②C₁～D₂の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。

送信チャンネル

2	4	7	9	11	14	16		
1	3	5	6	8	10	12	13	15

2. 受信チャンネルの設定

MIDI/
TRANPOSE

+

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

②C₄～E₅の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。

受信チャンネル

2	4	7	9	11	14	16		
1	3	5	6	8	10	12	13	15

OMNI ON

- 🎵 補足
- ・MIDI受信チャンネルが、オムニ・オンに設定されていると、すべてのチャンネルの情報を受信します。
 - ・電源をオンにした時は、送信チャンネルはチャンネル1に、受信チャンネルはオムニ・オン/チャンネル1に戻っています。

MIDIトランスポーズの設定

本体で鳴る音には影響を与えずに、MIDI出力するデータだけにトランスポーズ(移調)をかける方法を紹介します。

● MIDIトランスポーズの設定

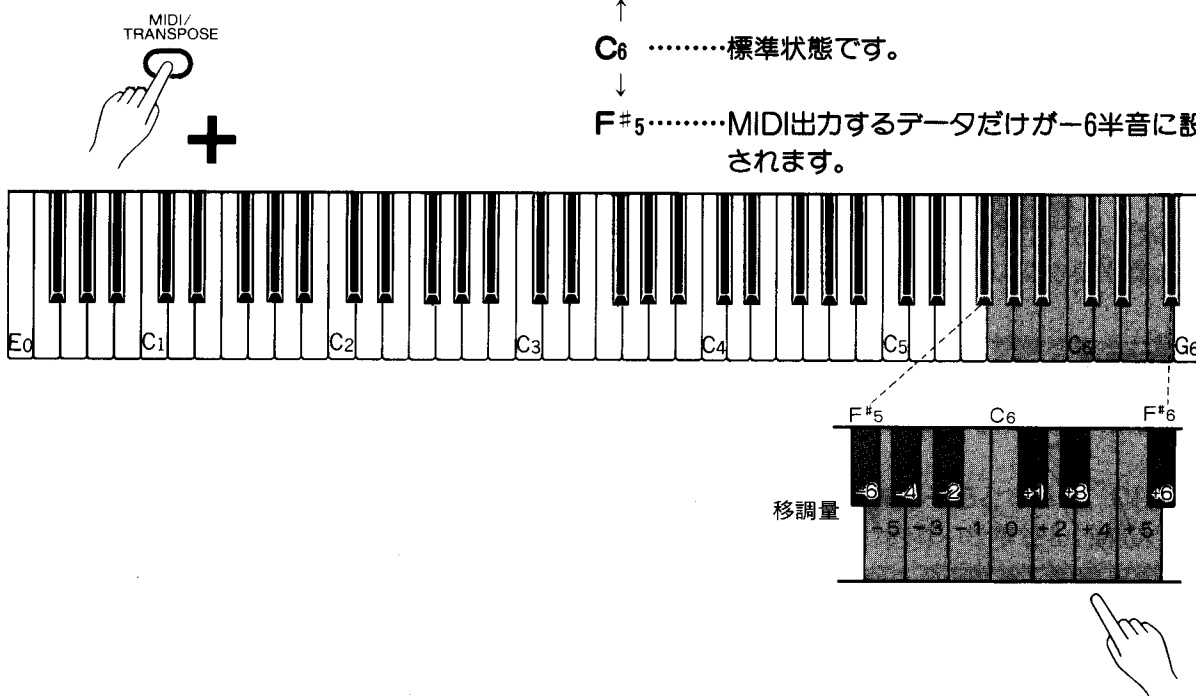
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②F \sharp ₅~F \sharp ₆の鍵盤を押さえます。

F \sharp ₆.....MIDI出力するデータだけが+6半音に設定されます。

↑
C₆標準状態です。

↓
F \sharp ₅.....MIDI出力するデータだけが-6半音に設定されます。



◆ MIDIトランスポーズ機能を使った例

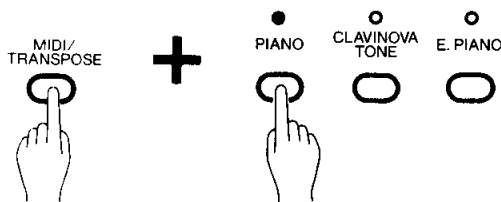
- ・他の音源をトランスポーズして、CLP-121の音とハーモニーをつけて演奏する。
- ・他の音源をトランスポーズして鳴らす。CLP-121の音を出したくない時は、ローカルコントロール・オフ（次ページ参照）にします。

その他のMIDI設定

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、次のボタンを押すことで、それぞれの機能に入ります。

ピアノ……………ローカルコントロール・オン/オフ
 クラビノーバトーン…………プログラムチェンジ・オン/オフ
 エレクトリックピアノ…………コントロールチェンジ・オン/オフ
 ハープシコード…………マルチティンバー・オン/オフ
 オルガン……………MIDIスプリット&レフトローカル・オフ

1. ローカルコントロール・オン/オフ



○
PIANO = ローカルコントロール・オン

●
PIANO = ローカルコントロール・オフ

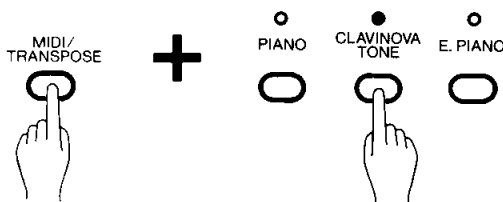
CLP-121の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すかどうかの設定です。

ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。CLP-121本体を鳴らさずに、MIDIで他の音源をコントロールしたい時だけオフの設定にしてください。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、ピアノ(PIANO)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。
- ・ローカルコントロール・オンでピアノのランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

2. プログラムチェンジ・オン/オフ



○
CLAVINOVA TONE = プログラムチェンジ・オン

●
CLAVINOVA TONE = プログラムチェンジ・オフ

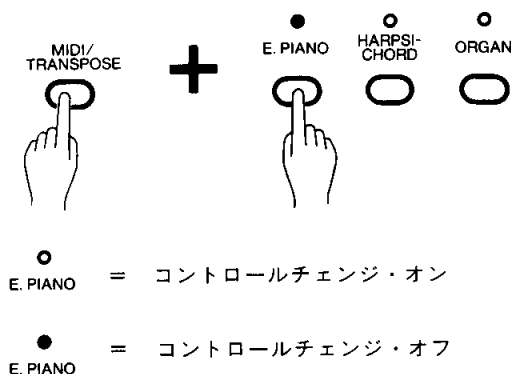
MIDIの音色切り替えの信号を送受信するかしないかの設定です。

プログラムチェンジをオフにすると、MIDI音色切り替えの信号を受け取っても、音色は切り替わらなくなります。また、CLP-121から他のMIDI音源に対する音色切り替えもできなくなります。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。
- ・プログラムチェンジ・オンでクラビノーバトーンのランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

3. コントロールチェンジ・オン/オフ

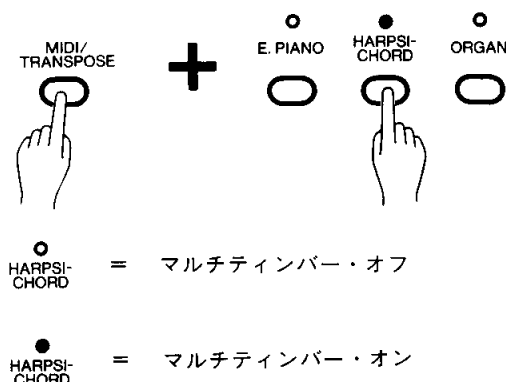


ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダルのオン/オフの信号をはじめとする、MIDIのコントロールチェンジ信号を送受信するかどうかの設定です。コントロールチェンジをオフにすると、ペダル操作などのコントロールチェンジの情報(29ページ参照)をMIDIでコントロールできなくなります。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ(E.PIANO)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。コントロールチェンジ・オンでエレクトリックピアノのランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

4. マルチティンバー・オン/オフ



CLP-121をマルチティンバーモードにするかどうかの設定です。

マルチティンバーをオンにすると、シーケンサーに別々のチャンネルで記録されているさまざまなパートの演奏情報を、CLP-121本体1台で同時に演奏することができます。

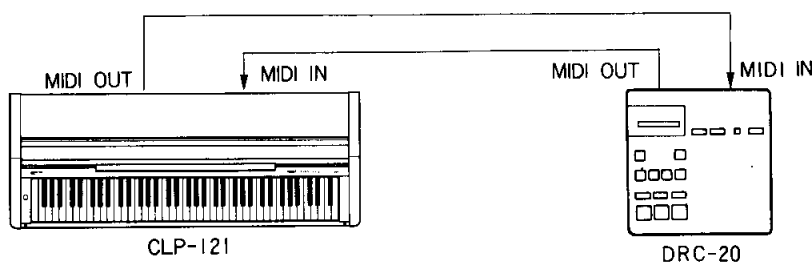
オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーブシコード(HARPSICHORD)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。マルチティンバー・オフでハーブシコードのランプが消灯、オンにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オフに設定されています。

◆ マルチティンバー機能を使った例

マルチティンバー機能を使った例の1つとして、複数のパートによるアンサンブル演奏をディスクレコーダー DRC-20に録音し、録音した各パートの演奏をCLP-121の中の異なった音色で再生する場合を紹介します。

①CLP-121とDRC-20を、図のように接続します。



②CLP-121をマルチティンバー・オンにします。

③DRC-20のトラック1を録音状態にします。

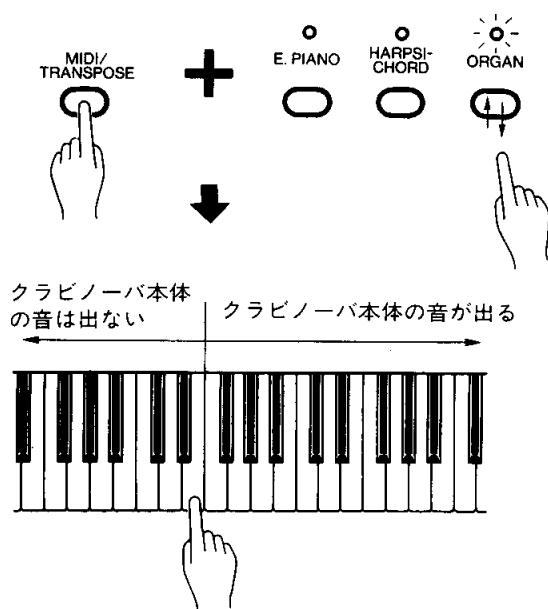
④CLP-121で音色を選び、DRC-20に第1/パートを録音します。

⑤DRC-20のトラック2を録音状態にします。

⑥CLP-121で音色を選び、DRC-20に第2/パートを録音します。

⑦CLP-121をマルチティンバー・オンにしたままDRC-20を再生させます。録音中に選択したそれぞれの音色を使って、録音したパートが完全なアンサンブルの音になって再生されます。

5. MIDIスプリット&レフトローカル・オフ



○
ORGAN = 通常の状態

●
ORGAN = MIDIスプリット &
レフトローカル・オフ

ある鍵盤を境にして、左側の鍵盤の音をクラビノーバ本体では鳴らないようにする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を用意すると、左側の鍵盤でMIDI機器をコントロールし、右側の鍵盤でクラビノーバ本体を鳴らすといった演奏が可能になります。

また、境になる鍵盤(スプリットポイント)も、設定することができます。

設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガン(ORGAN)ボタンを押します。

すると、オルガンのランプが点滅を始めます。

②引き続きMIDI/トランスポーズボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

すると、オルガンのランプが点灯し、MIDIスプリット&レフトローカル・オフの状態になります。

③MIDI/トランスポーズボタンを離します。

④再びMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガンボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

🎵 補足 ・ MIDIスプリット&レフトローカル・オフ時には、左側の鍵盤の演奏情報は、MIDIチャンネル2で送信されます。

・ スプリットポイントの鍵盤は、常に左側に含まれます。

・ 電源をオンにした時は、スプリットポイントはF#₂に、MIDIスプリット&レフトローカル・オフは通常の状態に戻っています。

MIDIデータフォーマット

ここでは、CLP-121のMIDI仕様を解説しています。MIDIデータについて詳しく知りたい方は、お読みください。

1. ノートオン/オフ

データフォーマット：[9nH]→[kk]→[vv]

9nH=ノートオン/オフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo.(送信22~109=A#-1~C#7、
受信21~108=A-1~C7)

vv =ベロシティ(キー・オン=1~127、キー・オフ=0)

データフォーマット：[8nH]→[kk]→[vv]

8nH=ノートオフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo.(21~108=A-1~C7)

vv =ベロシティ(キー・オフ=0~127、ただしベロシティの
コントロールは行いません。)

※受信のみします。

2. コントロールチェンジ

データフォーマット：[BnH]→[cc]→[vv]

BnH=コントロール情報(n=チャンネルNo.)

cc =コントロールNo.

vv =コントロール値

cc	コントロール	値(vv)
07H	ボリューム (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
0AH	パンポット (受信のみ)	00H~17H : 左6 18H~1FH : 左5 20H~27H : 左4 28H~2FH : 左3 30H~37H : 左2 38H~3FH : 左1 40H~47H : 中央 48H~4FH : スケーリングパン 50H~57H : 右1 58H~5FH : 右2 60H~67H : 右3 68H~6FH : 右4 70H~77H : 右5 78H~7FH : 右6
0BH	エクスプレッション (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
40H	ダンパーペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
42H	ソステヌートペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン

43H	ソフトペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
79H	リセットオールコント ローラー(受信のみ)	00H
7AH	ローカルコントロール (受信のみ)	00H : オフ 7FH : オン
7BH	オールノート・オフ (受信のみ)	00H
7CH	オムニ・オフ/オールノ ート・オフ(受信のみ)	00H
7DH	オムニ・オン/オールノ ート・オフ(受信のみ)	00H

3. プログラムチェンジ

データフォーマット：[CnH]→[pp]

CnH=プログラム情報(n=チャンネルNo.)

pp =プログラムNo.

pp	音色名
00	ピアノ
01	グラビノーバトーン
02	エレクトリックピアノ
03	ハーブシコード
04	オルガン

4. システムリアルタイムメッセージ

アクティブセンシングFEH

送信時は約200msecごとに1回。400msec以上受信しないと発音が停止します。

5. システムエクスクルーシブメッセージ

①ヤマハMIDIフォーマット

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[Xn]→[ff]→
[F7H]

43H : ヤマハID
Xn : サブステータス+チャンネルNo.
ff : フォーマットNo.

X ff 機能
2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト
2 7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

②クラビノーバMIDIフォーマット

データフォーマット : [F0H]→[43H]→[73H]→[30H]→
[yY]→[F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
30H : CLP-121 ID
yY : サブステータス

yY 機能

13H マルチティンバー・オフ
15H マルチティンバー・オン
7CH オールノート・オフ、受信チャンネル=c+1、オム
ニ・オフ

③特殊コントロール

データフォーマット : [F0H]→[43H]→[73H]→[30H]→
[11H]→[0nH]→[cc]→[vv]→
[F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
30H : CLP-121 ID
11H : クラビノーバ特殊コントロール
0nH : コントロールMIDIチェンジ+チャンネルNo.
cc : コントロールNo.
vv : 値

cc	コントロール	値(vv)
08H	デュアルバランス	00H : 左側音色最大 7FH : 右側音色最大
5AH	デュアルオン/オフ	00H : デュアル・オフ 01H : デュアル・オン(ノーマル) 02H : デュアル・オン(左側音色1オクターブ上) 03H : デュアル・オン(右側音色1オクターブ上)
5CH	デュアルボイス	vv : デュアルボイス音色

パネルデータ送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7CH、00H、19H (n=チャンネルNo.)
53H、4BH、20H、20H (SK)
43H、4CH、50H、31H、32H、31H (CLP-121)
3xH、3yH (x,y=バージョンNo.)
[パネルデータ]
[チェックサム(1バイト)]=0-(53H+4BH+20H+
.....+データエンド)
F7H

パネルデータ項目

- ①ボイス
- ②デュアルボイス
- ③デュアルオン/オフ
- ④デュアルバランス
- ⑤~⑩0
- ⑪レフトペダル(ソフトまたはソステヌート)
- ⑫スプリットポイント
- ⑬0

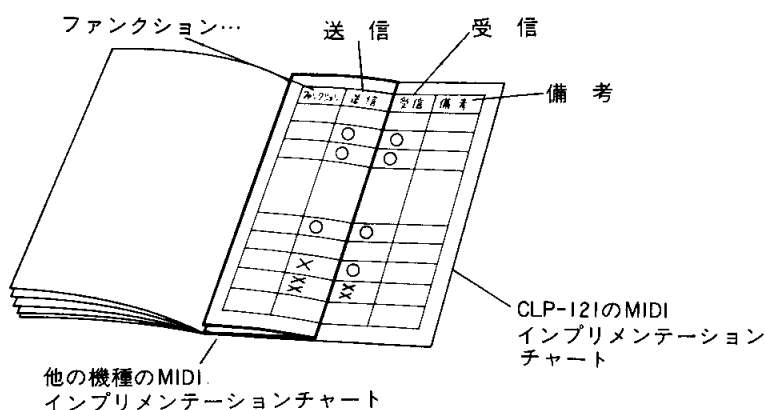
モデルIDコード送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7DH、00H、10H (n=チャンネルNo.)
53H、4BH、20H、20H (SK)
43H、4CH、50H、31H、32H、31H (CLP-121)
3xH、3yH、20H、20H、20H、20H (x,y=バージョンNo.)
[チェックサム(1バイト)]=0-(53H+4BH+20H+
.....+20H)
F7H

MIDIインプリメンテーションチャートとは

シンセサイザーや音源モジュールなどのMIDI機器には、必ずMIDIインプリメンテーションチャートと呼ばれる機能一覧表がついています。その機器がMIDIのどんな機能に対応しているかは外見からは判断できないため、このような表をつけることをMIDI規格で定めているのです。

この表では左端の列にMIDIの各機能が並び、受信と送信でそれぞれの機能に対応しているかどうかを“○”と“×”で表わしています。2つの機器でお互いにどんな機能に対応しているかを調べる時には、それぞれの機種種のチャートを縦に2つ折りにし、受信側と送信側をつなげてみます。(右図参照。“○”が2つ並べば、その機能が使えることになります。)



MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1992.4.29
Version:1.0

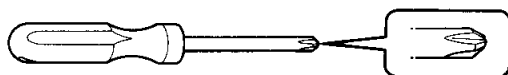
ファンクション...		送 信		受 信		備 考	
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能		1チャンネル 1〜16チャンネル		1チャンネル 1〜16チャンネル			
モード 電源ON時 メッセージ 代用		モード3 × *****		モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			
ノート ナンバー 音域		22〜109 *****		0〜127 21〜108			
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ		09nH、v=1〜127 ×9nH、v=0		0v=1〜127 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別		× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー		×		×			
コントロール チェンジ		07 × 10 × 11 × 64 ○ 66 ○ 67 ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル	
		121 ×		○		リセットオール コントローラー	
プログラム チェンジ 設定可能範囲		00〜4 *****		○ 0〜4 0〜4			
エクスクルーシブ		○		○			
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン		× × ×		× × ×			
リアル クロック タイム コマンド		× ×		× ×			
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット		× × ○ ×		○ ○(123〜125) ○ ×		※1	
備考 ※1 123はオムニ・オフ時またはマルチ・ティンバーモード・オン時							

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリモード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ○: あり
×: なし

クラビノーバの組み立てかた

- ・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

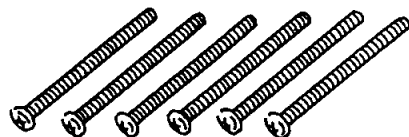
1. +(プラス)のドライバーを用意します。



2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VN92050

長いネジ(金色)×6 ①



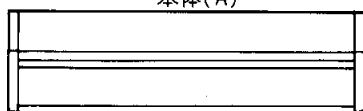
短いネジ(頭大)×4 ②



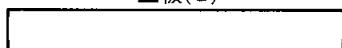
短いネジ(頭小)×8 ③



本体(A)



上板(B)



左板(C)



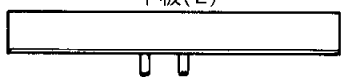
右板(D)



左足(F)



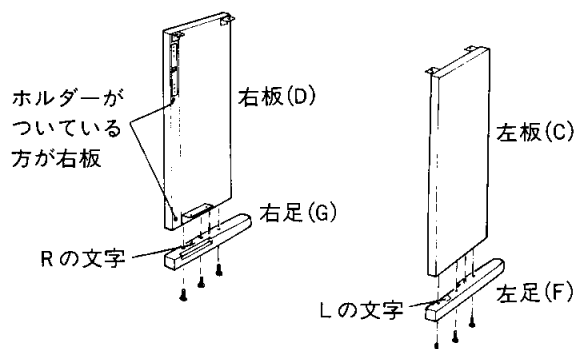
下板(E)



右足(G)

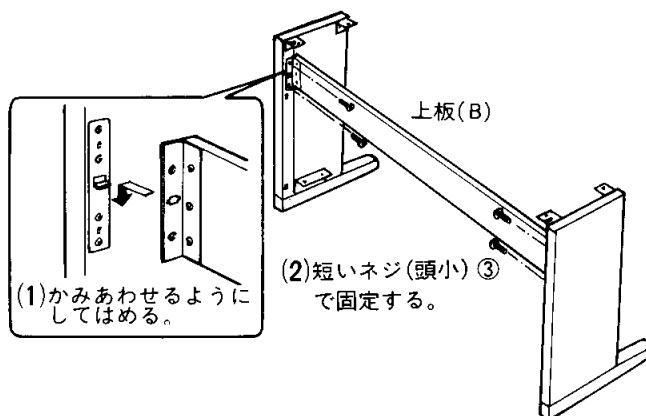


3. 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。



長いネジ(金色)①で固定する

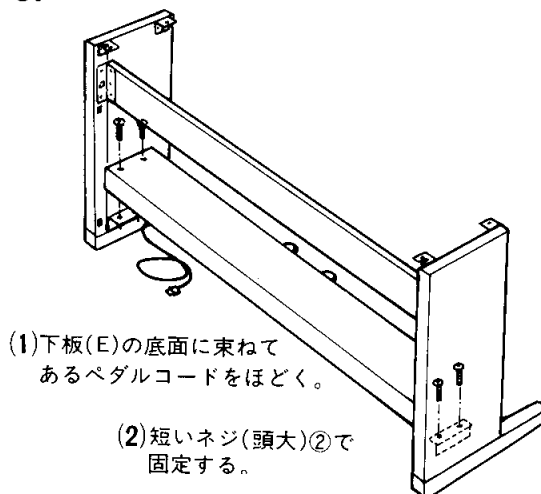
4. 上板(B)を固定します。



(1)かみあわせるようにしてはめる。

(2)短いネジ(頭小)③で固定する。

5. 下板(E)を固定します。



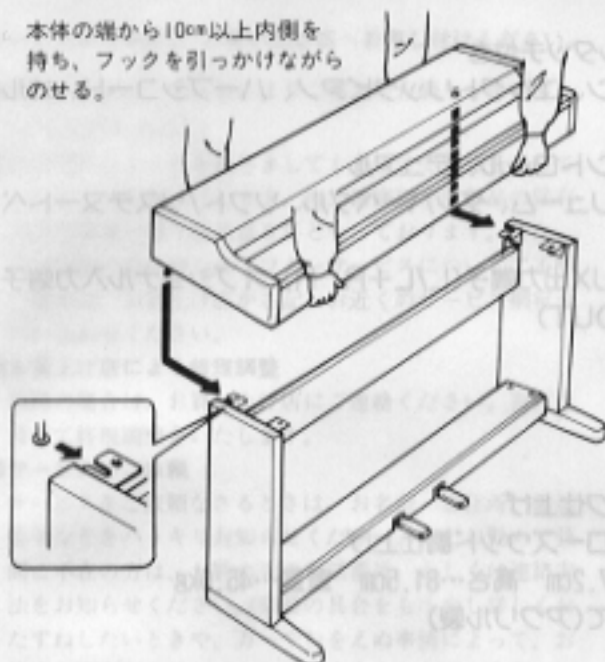
(1)下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。

(2)短いネジ(頭大)②で固定する。

6. 本体をのせます。

※指をはさまないように充分注意してください。

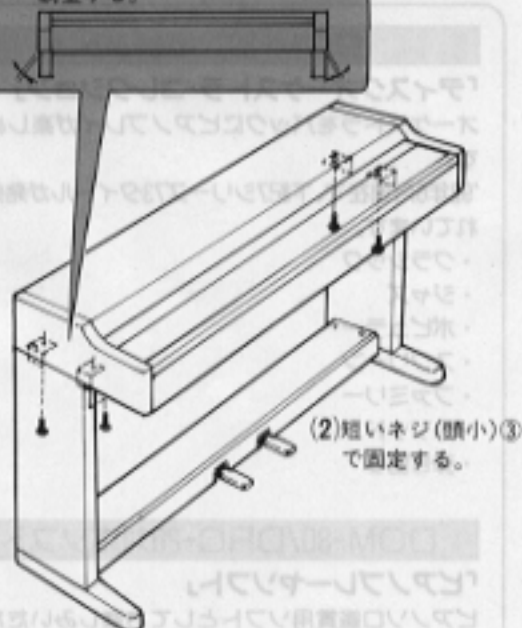
本体の端から10cm以上内側を持ち、フックを引っ掛けながらのせる。



7. 本体を固定します。

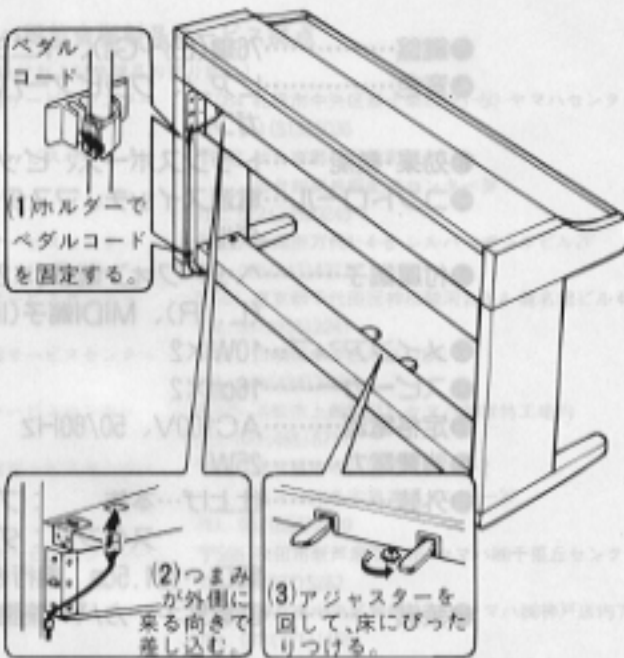
注意

(1)前面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。



(2)短いネジ(頭小)③で固定する。

8. ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



🎵 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

【部品が余っていませんか？】

→組み立て手順を再確認してください。

【部屋のドア等が、クラビノーバにあたいませんか？】

→クラビノーバを移動してください。

【クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？】

→ネジを確実に締めてください。

【ペダルを踏むと、下板ガタガタしませんか？】

→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

【ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？】

→確認してください。

・引っ越しなどでクラビノーバを移動した場合は、各ネジを締め直してください。

仕様

- 鍵盤……………76鍵(E₂~G₆)、イニシャルタッチ付き
- 音色……………ピアノ、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、オルガン
- 効果・機能 ……トランスポーズ、ピッチコントロール、デュアル
- コントロール…電源スイッチ、マスターボリューム、ダンパーペダル、ソフト/ソステヌートペダル
- 付属端子……ヘッドフォン端子(×2)、AUX出力端子(L/L+R, R)、オプション入力端子(L, R)、MIDI端子(IN, OUT)
- メインアンプ…10W×2
- スピーカー……16cm×2
- 定格電源……AC100V、50/60Hz
- 消費電力……25W
- 外装……………仕上げ…本体 ：ブラック仕上げ
 スタンド：ダークローズウッド調仕上げ
- 開口…121.5cm 奥行き…47.2cm 高さ…81.5cm 重量…45.0kg
- 装備……………回転式キーカバー兼譜面立て(アクリル製)

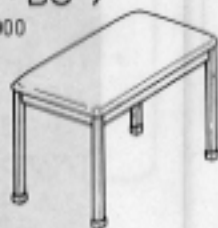
※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション（別売品）のご紹介

ヘッドフォン・HPE-6
¥5,500



椅子・BC-7
¥8,000



ディスクオーケストラ・モジュール DOM-30
¥110,000



ディスクレコーダー DRC-20
¥50,000



DOM-30対応ソフト

「ディスクオーケストラ・コレクション」

オーケストラをバックにピアノプレイが楽しめます。

*92年6月現在で、下記7シリーズ73タイトルが発売されています。

- ・クラシック
- ・ジャズ
- ・ポピュラー
- ・スクリーン
- ・ファミリー
- ・メソッド
- ・弾き語り

DOM-30/DRC-20対応ソフト

「ピアノプレーヤソフト」

ピアノソロ鑑賞用ソフトとしてお楽しみいただけます。

*92年6月現在で、352タイトルが発売されています。

※表示の価格には、消費税は含まれていません。

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 025(243)4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL. 03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内7F TEL. 078(321)1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
(本 社)	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店/〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
鍵盤推進課 TEL.011(512)6114

仙台支店/〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル
鍵盤推進課 TEL.022(222)6149

東京支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3140

関東支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3120

名古屋支店/〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店/〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06(252)7541

広島支店/〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
鍵盤推進課 TEL.082(244)3748

九州支店/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

鍵盤営業本部
電子楽器営業部
クラブノーバ営業課/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(5568)2932

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社